



■ 理事・副センター長ごあいさつ



安彦 広斉 【総務担当理事】

本年4月に総務担当理事を拝命いたしました安彦広斉です。

男女共同参画社会は、男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会であり、仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現することにより、「ひとりひとりの豊かな人生」という最上位目標を達成することが大事だと考えます。

さて、そう考えた時、何が障害となるのでしょうか。約20年前、私が育児する中での一例ですが、ほとんどの外出先で男性が利用できるおむつ替えスペースがなく障害があると感じました。このような理不尽さは、女性の方が多く経験しているはずです。

本学では、これまで、男女共同参画推進センターを中心として、着実に男女共同参画、女性活躍推進に向けた女性研究者支援、意識啓発等への取組が進められてきました。

これから、私が担当理事として果たすべき役割は、本学の教職員や学生ひとりひとりがその意欲に応じて仕事や学問の探究などで活躍できるよう、学内での男女共同参画の発展・充実に障害となる問題を発見し解決することです。今後、中村学長の下、関係の皆様のご支援とご協力をいただきつつ、多様な視点から小さな声にも耳を澄ませながら、「知の森」づくりをめざす学問の府である信州大学ならではの取組に尽力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



伊藤 尽 【副センター長】

(学術研究院人文科学系教授)

此度、副センター長を拝命しました伊藤尽と申します。昨年度より男女共同参画推進センター運営委員として参加させて頂き、一年間学んで参りました。

私の専門は中世英語・北欧語文献学です。そこに記されるのは神話的两性具有の巨人や、厳つい男性が活躍する中で遅く生きる女性の姿です。以前は男性だけと見なされたヴァイキングにも女性がいたという最新の研究もあります。最新の知見は人間の認識を拓き、古い価値観を揺さぶります。それに動揺するのではなく、新たな時代を生きるための指針を、大学という学問・研究機関は持つべきでしょう。

信州大学は「SOGI(性的指向・性自認)の多様性を尊重するための基本理念・基本方針～すべての人の対等・平等、人権の尊重のために～」を2022年に策定しました。日本の家族や結婚の今後の在り方に先んずるものです。学問は国境を超えて普遍的な価値に繋がるもの。本センターの示す方向性がそのような価値を持ち、人間らしく働き、生きる環境作りに貢献できるよう、尽力したいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

男女共同参画推進センター運営委員会

新委員ご紹介

令和6年4月より8人の教職員が新たに委員となりました。
どうぞよろしくお願いいたします。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ●学術研究院理学系教授 | 栗林 勝彦 |
| ●学術研究院保健学系准教授 | 牟田 理恵子 |
| ●学術研究院工学系教授 | KAWAMOTO PAULINE NAOMI |
| ●学術研究院繊維学系助教 | 瀧澤 辰洋 |
| ●学術研究院医学系(附属病院)助教 | 高沢 裕子 |
| ●教育学部総務グループ主査心得 | 常泉 竜太 |
| ●医学部財務・研究支援グループ主査 | 緒方 崇陽 |
| ●医学部附属病院臨床工学技士長 | 菊池 紀敏 |



コラム 「自分らしく生きるとは」

Column

関 利恵子 センター長

5月5日の子供の日、野球中継を見ていると大勢の子供が野球帽、推し選手の背番号のユニフォームを着たりと男の子も女の子も声援を送っている姿が映し出された。私の小学校時代、野球は男子のスポーツというイメージが強く、野球帽をかぶりバット片手に男子と空き地で草野球をする女子の姿は珍しかった。そして全校朝礼ではカーブの野球帽をかぶった私の頭だけが「ぼつんと紅」。全校で知らない人はいないくらい目立っていた。

昨今は、スポーツに限らず様々な分野で男女共に参加できる時代になってきた。しかし、いまだ「女の子だから…」(朝日新聞 2024年5月5日:朝刊1面)という理由で自分が進みたい道へ進めない人も多くいるという。

2024年度も学内、県内各所での講演、セミナーを通じて情報を発信し、一人でも多くの方々がお互いの個性を理解、尊重し、自分らしく生きられるような社会そして組織に近づいていけばと思う。



女性活躍推進法に基づき、以下の情報を公表します。

- 管理職に占める女性の割合 (2024年4月時点)

19.2% (25人) (管理職全体(男女計)130人)

- 役員に占める女性の割合 (2024年4月時点)

20.0% (2人) (役員全体(男女計)10人)



育児・介護休業法に基づき、以下の情報を公表します。

- 男性教職員の育児休業等の取得率(※) (2024年4月時点)

本学の男性教職員
(常勤教職員及び非常勤教職員)の
育児休業等の取得率

23.07%



■ メンター制度利用実績報告 (令和5年度)

学部生、大学院生それぞれ1人から、研究者としての将来について、結婚・出産について、育児と仕事の両立について、キャリア形成について、各種補助金について相談がありました。メンター制度は随時受付中です。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/initiatives/mentor.php>

■ ベビーシッター派遣事業割引券の配布を開始しました

令和6年度分の割引券の配布を開始しました。令和5年度は3名で373枚の利用がありました。

詳細は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/support/babysitter.php>

■ イクボス・あったかボス宣言を更新しました

令和6年4月1日の新学部長就任、人事異動に伴い、イクボス宣言を行っていただきました。宣言内容は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/awareness/iku-boss.php>

■ 男女共同参画週間 (6/23~6/29) に伴い「パネル展示」を行います

期間: 令和6年6月20日(木)~

場所: 中央図書館2階エレベーターホール

詳細は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/event/623629-1.php>

活き“粋” Column Relay コラムリレー 第1回

このコラムは、本学で“活き活き”働く教職員がリレー形式でお届けする“粋”なコラムです。

旅をしながら子育て？ 子連れ海外フィールドワークで新しい発見！

現在、3歳と7歳の女子の子育て中です。2017年と2021年に育休を取得しました。年に何度か、子連れでアジア(ラオス、ネパール)やアフリカ(ケニア)でのフィールド研究を行っています。現地の人々は、子ども好きな人が多いので、たくさんの方が声を掛けてくれたり、遊んでくれます。長時間の移動、慣れない食事、大変なこともあります。みんなで行くことで、楽しいことも



ケニアの子どもたちと

も2、3倍になり、充実した研究生活を送ることができています。子ども達は、覚えてたの言葉を駆使して、それぞれの土地での生活を楽しんでいます。道路に牛が歩いていたり、信号がなかったり、子ども達が教えてくれる、“新しい発見”と“疑問(何故)”を聞くことがとても楽しみです。日本での休日の楽しみは、

ともかわ さち 友川 幸 准教授

学術研究院 (教育学系)

家族構成

夫・長女(7歳)・次女(3歳)

あなたのリラックス法は？

週末に子ども達と一緒に温泉に入ること。

調査地へのポート移動には救命胴衣を着けて



冬は、温泉めぐりとそこでの食事。子ども達は、食後のソフトクリームを楽しみにしています。夏は、山に登ったり、噴水で遊んだり、信州の自然を満喫しています。



週末は温泉で



ラオスでの移動手段はトクトゥク

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター(SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。

▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/>

信州大学 スフレ

検索



教育学部分室 〒380-8544 長野市西長野 6-口 内線 831-4018	工学部分室 〒380-8533 長野市若里 4-17-1 内線 821-5693	農学部分室 〒399-4598 上伊那郡南箕輪村 8304 内線 851-3120	繊維学部分室 〒386-8567 上田市常田 3-15-1 内線 841-5031
--	---	--	--